

ウィーンでの核兵器禁止条約第1回締約国会議及び関連行事 に対する全国被爆二世団体連絡協議会としての取り組み

6月21日(火)から23日(水)にかけて、オーストリア・ウィーンで核兵器禁止条約第1回締約国会議が開催され、それに伴い、6月18日(土)、19日(日)にはICAN主催の市民社会フォーラム、6月20日(月)にはオーストリア政府主催の「核兵器の非人道性に関する国際会議」など関連行事が開催されました。全国被爆二世団体連絡協議会(以下「全国被爆二世協」という)では、締約国会議や関連行事において、被爆二世や将来世代を含む核被害者の人権確立と核廃絶を訴えることを目的に取り組みを行いました。



市民社会フォーラムで挨拶する
フィン ICAN 事務局長

具体的には、2つの取り組みを行いました。

第一に、全国被爆二世協として、第1回締約国会議への参加団体としての認定を受けること、その上で、全国被爆二世協として条約第6条に関する作業文書を提出することを目標に取り組みました。その結果、全国被爆二世協が締約国会議への参加団体として認定され、今後の締約国会議に対する取り組みにつながることになりました。また、参加団体としての認定を受けたことで、全国被爆二世協として作業文書が提出できることになり、作業文書「日本における原爆被爆二世が置かれた状況に関する情報と核兵器禁止条約第6条の『核被害者に対する援助』に関する提案」を締約国会議へ提出しました。文書では、「日本における被爆二世が置かれた状況」、「被爆二世がどのような人権侵害を受けてきたか」、「日本政府は被爆二世の人権保障のために被爆者援護法を適用すべきである」ということを記載したうえで、第6条の「被害者に対する援助」について、第一に、当事者として、被爆二世や将来世代を含む核被害者を「被害者」の対象とすること、第二に、日本における被爆者援護法の本来の立法趣旨に基づく総合的な「被害者に対する援助」を提案しました。

第二に、ウィーンへ代表(会長:崎山昇)を派遣し(原水爆禁止日本国民会議の団に加えていただきました)、関連行事に参加して、被爆二世や将来世代を含む核被害者の人権

確立と核廃絶を訴えるとともに、世界の核被害者や市民社会の皆さんとの交流、連帯をめざしました。市民社会フォーラムへ参加し、6月18日13時15分から14時にかけて開催された「汚染された遺産は世代を超えて抵抗を生む」と題する被爆二世・三世に焦点を当てたセッションで4人のスピーカーの一人として登壇させていただきました。



筆者が参加したセッション

他の3人は、長崎の被爆三世、フィジーの核被害者三世、広島の被爆三世であり、そして、ファシリテーターは広島の被爆四世でした。最初に各人が5分間英語でスピーチした後、条約第6条、第7条に関して追加してほしいことをテーマにディスカッションしました。私は、5分以内で、次のようなことを訴え、その後、締約国会議に作業文書を提出し2つのことを提案したことを説明し、参加されていた市民社会の皆さんへ理解をお願いしました。

「私たち被爆二世は被爆者としての親の苦しみを見てきた。私たちは、自らも原爆放射線の遺伝的影響を否定できない状況に置かれた核被害者である。戦争中、原爆が投下された当時には生を授かっていな



かった被爆二世が、原爆放射線の影響によって、過去と現在の健康障害に苦しみ、将来の健康不安に怯えている。さらに、深刻な社会的偏見や差別に苦しんでいる。私たち被爆二世は、核兵器の人権侵害の最たるものの一つが、放射線の次世代への影響であることを、自らの体験から国際社会に強く訴える。私たち被爆二世は、被爆二世や将来世代を含む核被害者の人権確立と、核被害者を再びつくらないために核廃絶を訴える。核兵器廃絶のために、核保有国も、その『核の傘』に依存する全ての国も、『核兵器禁止条約』に署名し、批准すべきである。被爆二世や将来世代を含む核被害者を第6条の『被害者に対する援助』の対象とすべきである。」

英語でスピーチする筆者

翌6月20日には「核兵器の非人道性に関する国際会議」へ参加し、傍聴しました。

残念ながら締約国会議には参加できませんでしたが（参加するためのパスは取得）、会議はウィーン宣言や行動計画を採択して閉幕しました。

今回の取り組みについて、①各国政府や市民社会に私たち被爆二世が置かれた状況や活動を理解していただく機会になった、②市民社会、特に三世・四世や若い人たちとの今後の連帯につながるきっかけになったのではないかと考えています。今後は、若い人たちとも連帯しながら、締約国会議の結果を踏まえて、被爆二世や将来世代を含む核被害者の人権確立と核廃絶につながるよう取り組んでいきたいと思ひます。

帰国報告会を7月13日（水）18時30分～長崎県勤労福祉会館で行います。

全国被爆二世団体連絡協議会
会長 崎山 昇



「核兵器の非人道性に関する国際会議」で挨拶
する中満泉国連事務次長兼軍縮担当上級代表